



猛暑中の避難生活を想定 ペット同伴時の備え重要

防災グッズフェア始まる

脱出ハンマーなど売れる

最大震度7を観測した7月の熊本地震、多数の死傷者が出た今月の千葉豪雨などを受け、防災関連のグッズにあらためて注目が集まっている。県内では24日からスーパーやホームセンターなどで一斉に「防災グッズフェア」がスタート。猛暑の中の避難生活など、最近の災害を受けて浮き彫りになった課題もあり、品そろえは多岐にわたる。



防災グッズについて説明するグッディ下郡店の谷崎栄滋店長。24日、大分市下郡、撮影・首藤洋平



断水に備え、体を清潔にする汗拭きシートも人気

フェアは防災週間（30日～9月5日）に合わせ、県が毎年実施している。今年度は県と災害時の物資供給協定を結ぶ企業のほか、公募に応じた家電量販店やカー用品店、ペットショップなど計15社が協力。103店

舗が特設コーナーを設け、非常持ち出し品や備蓄品を販売している。

大分市のホームセンター「グッディ」下郡店は店内入り口正面に特設コーナーを設けた。熊本地震が発生した7月28日から、水やブルーシートをまとめ買いする客が急増。被災した熊本への救援物資として企業関係者が調達するケースも多かったという。その後も、カセットコンロや保存食、発電機といった防災用品は売り上げを伸ばし、前年同期比で4倍以上という。

猛暑での被災を想定したグッズへの関心も高まっている。体を清潔にする汗拭きシートや保冷剤など体を冷やす商品も人気。水くみ用のポリ容器は品薄状態が続く。「避難所に行かずに自宅避難をする場合、支援物資が届くのに時間がかかる」と聞く。各自で最低限の物を備えておくことが大切」と谷崎栄滋店長（58）。熊本地震では、揺れが続き建物避けて車中泊を選

ぶ人が多数出ている。電源確保でも使われる車も関心を集める。カー用品販売の大分イエローハット（本社・大分市）は目隠し用カーテンや携帯トイレ、ポータブル充電器などをそろえ、中でも「ガソリン携行缶の準備を」と強調する。災害時は給油所に長蛇の列ができるなど燃料確保が困難になりがち。猿渡修一社長（49）は「ガソリンは命綱。車が動かさなくなった時は携行缶がないと給油できない」と注意を促す。

千葉豪雨では、急激な増水で車内に人が閉じ込められるケースもあった。グッディ下郡店では、車内から脱出するためのハンマーも売れているという。

ペット同伴での避難も課題。ペット用品を扱う「K9ZOO（ケイナインズ）」は、持ち運び用のキヤリーや1週間分の餌の準備を促す。パークブレイス店（同市）の白石新店主（53）は「ペットの備えは後回しになりがち。災害時は動物は緊張して食べなくなることもある。缶詰やフリーズドライなども備えておく」と助言する。県内一斉の防災フェアは9月6日まで。

（渡辺加美）



〔問①〕記事の内容を読み、以下の文の（ ）内にあてはまる適切な言葉や数字を記事中から抜き出して入れてください。

大分県内では、（ ）に合わせて、大分県や民間企業が協力した「防災グッズフェア」が始まった。今年（2026年）は7月（ ）日に発生した最大震度7の（ ）や、8月の千葉豪雨などの影響により、ホームセンター「グッデイ下郡店」では防災用品の売り上げが前年同期比で（ ）倍以上となっている。

〔問②〕記事内で紹介されている以下の商品について、それらが「なぜ必要とされているのか」の理由や背景を、記事本文から読み取ってまとめてください。

・汗拭きシート・保冷剤

・ハンマー

・ガソリン携行缶

・ペット用缶詰・フリーズドライ